

昭和 36 年岡山県 畜産 10 大ニュース

◆畜産振興計画の樹立（5月）

県畜産課では農業所得増大のため選択的拡大部門としての畜産の昭和45年を目標とした畜産振興10カ年計画を樹立し、これをもとに今後地域的な振興施策を推進して行くことになった。

◆岡山県総合畜産発足（7月）

数年来の懸案であった県畜産と県下の11部畜産の合併が実現し、7月1日から県下1本の総合的な事業を開始した。

◆加茂家畜保健衛生所新築（8月）

同衛生所は古くからの和牛産地である加茂町を中心に、家畜防疫、人工授精に大きな実績をあげてきたが、建物の老朽と狭隘から同所後援会が中心となり、県下1の規模で新築を計画、8月末落成、同地域の畜産センターとして活躍中。

◆県下の養鶏羽数 400 万羽を突破（8月）

飼養規模拡大の傾向が進むに従って県下の養鶏羽数は急速に増加、8月には遂に400万の大台を突破、402万羽を記録した。

◆大規模草地改良事業実施（9月）

全国3指定地域の1つとして蒜山地区に100余ヘクタールの草地造成を計画、酪農経営の拠点を作りあげるため、いよいよ本年度から事業を開始した。

◆岡山県営食肉市場着工（10月）

肉畜取引の合理化をはかるため岡山市網浜に近代的施設をもった県営の屠畜場および枝肉取引市場を建設、さらに冷蔵庫を設けて肉畜の系統共販等による計画出荷の推進をはかることにしている。

◆中国連合畜産共進会において和牛圧勝（10月）

神戸市で10月19日から開かれた第18回中国連合畜産共進会で本県出品の和牛は1等賞入賞16点のうち8点を占め、随一の成績をあげた。

◆主産地形成事業実施（11月）

今年度から国で事業が始められた畜産主産地として美星町（酪農）、高松町（養鶏）が指定を受け、畜産物の生産、出荷などの諸施設の整備を行なって、多頭羽数飼育による合理的な畜産集団産地の育成をはかることにしている。

◆県立酪農大学校開校（12月）

今後の酪農発展のためには新しい経営技術を身につけた酪農民の養成が必要であるとして真庭郡川上村（蒜山原）に酪農大学校を建設中で、12月1日開校、第1期生30名が入学した。

◆ランドレース種豚、ジャージー種雄牛を輸入（10月、12月）

県では新しい加工用肉豚の基礎としてスウェーデンからランドレース種30頭を導入、またジャージー乳牛の改良のためアメリカから優秀種雄牛1頭を導入、畜産の生産性向上をはかることにしている。

岡山畜産便り 1961. 11・12

畜産ニュース

ジャージー改良にアメリカから種雄牛を輸入

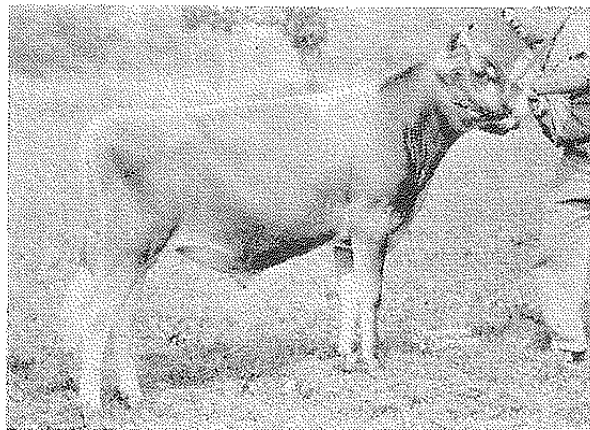
ジャージー種の優秀な種牡牛が近く津山市の県酪農試験場へ導入される。

県では県下の 3,000 頭のジャージーの改良を促進するため、本年度アメリカから優秀な系統のジャージー種牡牛の導入を計画していたが、このほど貿易商社野沢組に委託、マールファッション アンソン号を購入、さる 11 月 27 日横浜に到着、12 月 14、5 日頃津山へ到着する予定。

同牛はアメリカ、ニュージャージー州リンクロフトの、ジャージー種種牛生産ではアメリカ屈指のマール牧場産、14 ヶ月で、購入価格は輸送費を含め 300 万円。

血統および母牛の能力はつぎのとおり。

父 アンソンビジター



母 マール・ミレイデイス・ファッション・ヒント

検定成績	305 日	5 産
乳量	5,980kg	
乳脂量	312kg	